

編集後記

編集を了えてつくづく感じることは、執筆者を始め会員諸氏の、無償の協力の有難さである。原稿料ナシ、編集経費限りなくゼロでやって来たが、十号の刊行に手が届くところまで来た。このやり方には多少の風圧もあるのだが、発行元新世社の支援にも恵まれて、ここまで辿り着いたのである。

歴史は繰り返すと言う——、学問の自由という、この古ぼけた理想が近頃また希少価値の輝きを帯びてきている。真理の探究のために自由に考え、自由に発表する環境が失われつつあるのではないか。そういう状況の中で『パトリスティカ』の刊行という行為を考えてみると、われわれは無償の努力によって、学問の自由という貴重品を購入しているのかもしれないと、ふと思うのである。

今回の収録論文はすべて、研究会での発表を土台にしたものです。各論文に続く《討論》は、監修者それぞれの視点から編集の手が加わっており、また、内容を割愛することもあります。さらにまた、研究会の日から相当の時間が経過しているために、論文の内容と《討論》がかみ合わなくなる場合も生じます。以上どうか悪しからず。なお、討論部の付されていないものもありますが、それは会場の変更に伴って、あるいは、執筆者のご意向を承けてそうなっております。

(有)